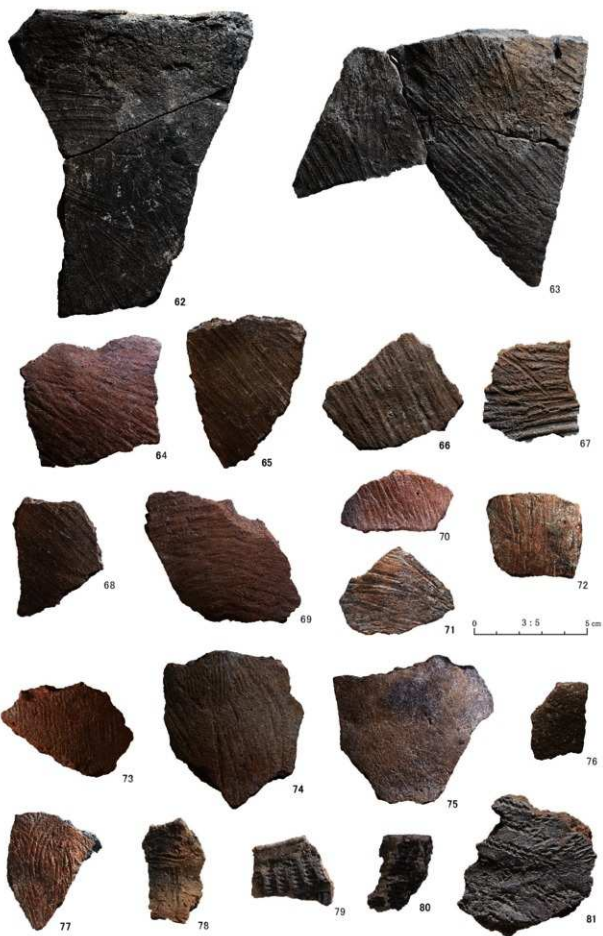




岩陰部出土土器 (1) 草創期・早期





岩陰部出土土器 (3) 早期



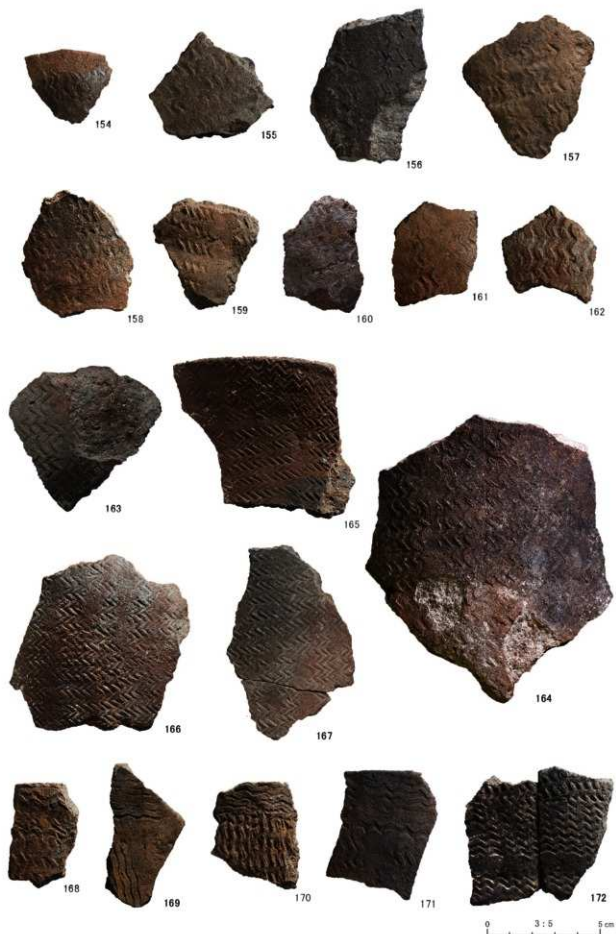
岩陰部出土土器（4）前期



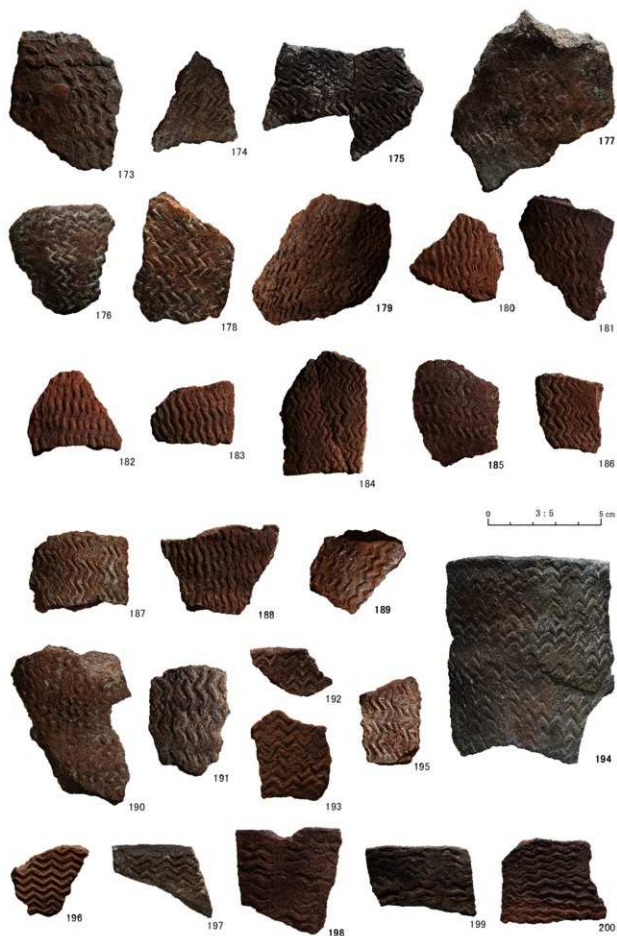
前底部緩斜面出土土器 (1) 早期



前底部緩斜面出土土器 (2) 早期



前底部緩斜面出土土器（3）早期

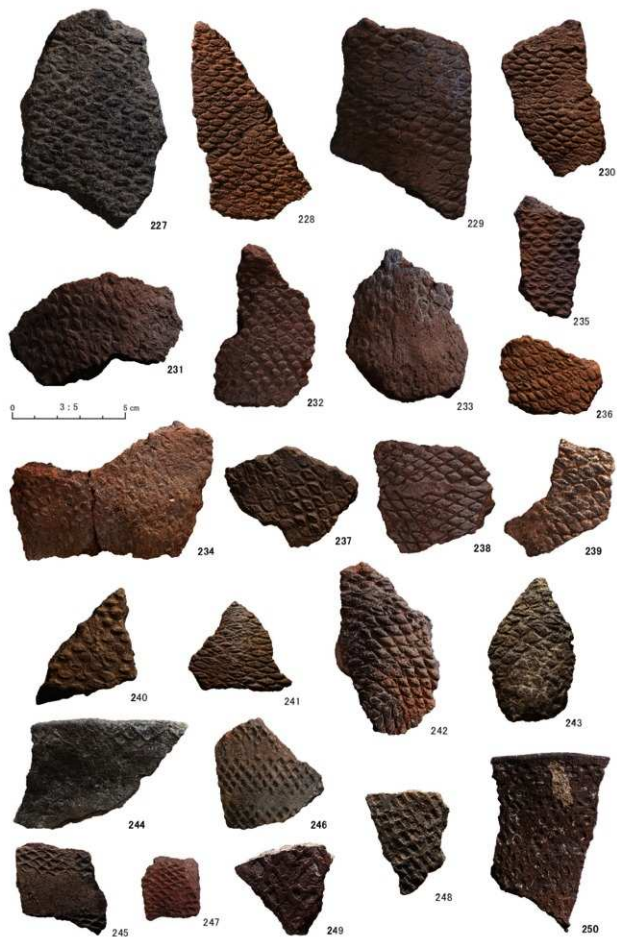


前底部緩斜面出土土器（4）早期





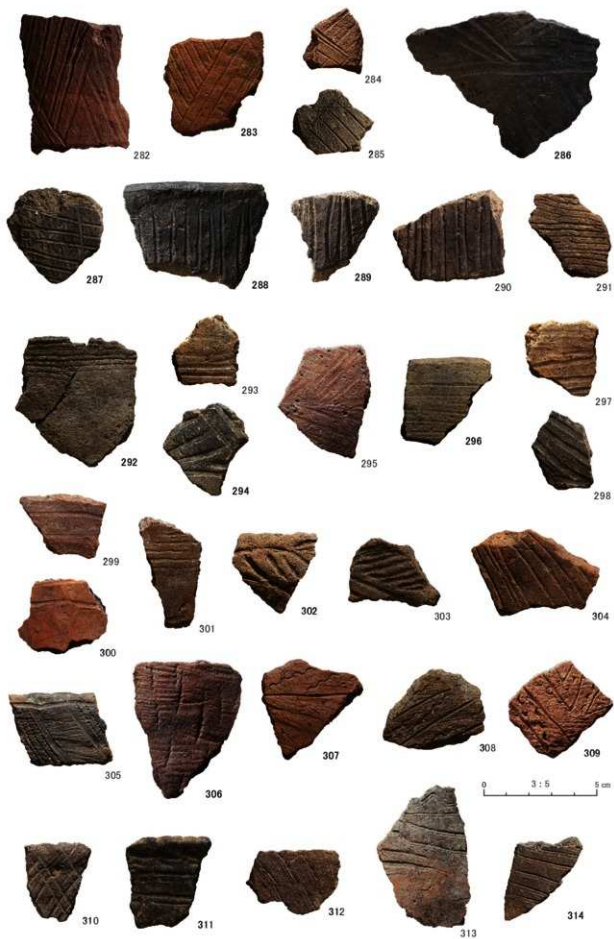
前底部緩斜面出土土器 (5) 早期



前底部緩斜面出土土器 (6) 早期



前底部緩斜面出土土器 (7) 早期



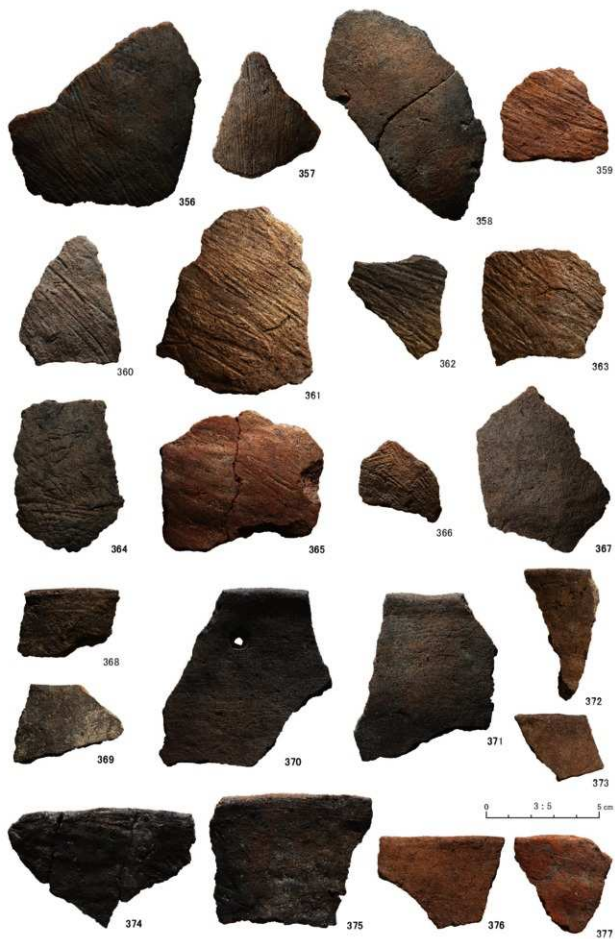
前底部緩斜面出土土器 (8) 早期



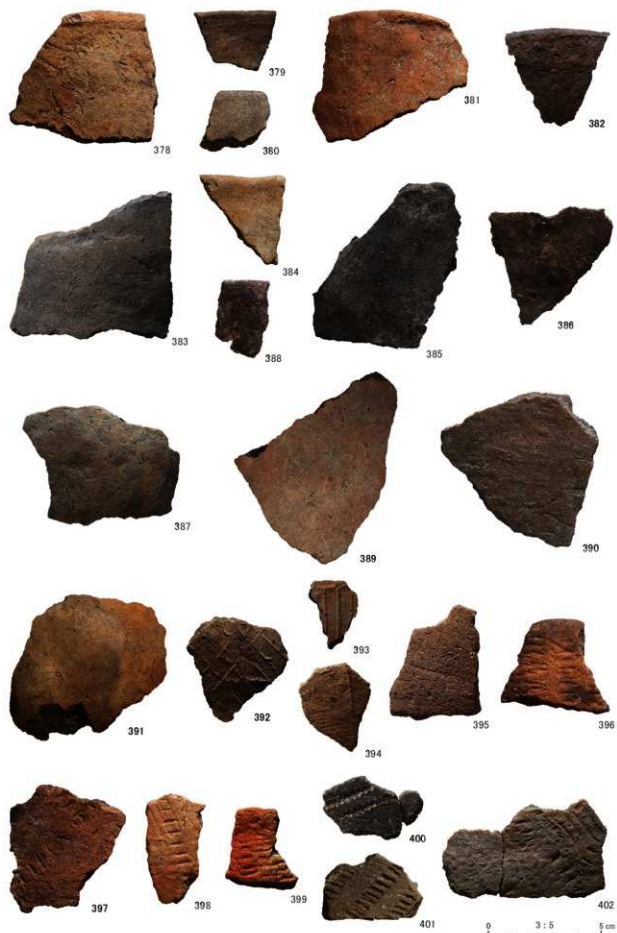
前底部緩斜面出土土器 (9) 早期



前庭部縦斜面出土土器 (10) 早期

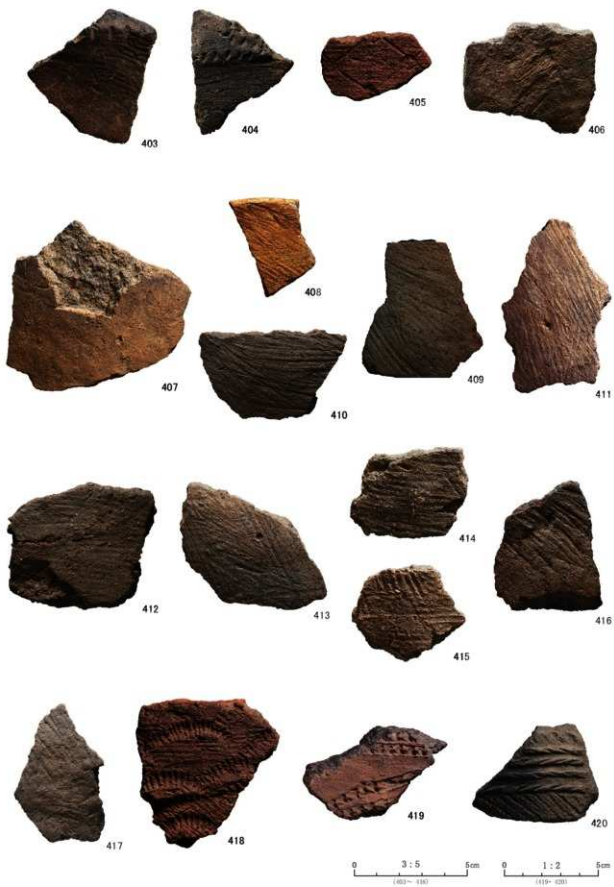


前底部緩斜面出土土器 (11) 早期



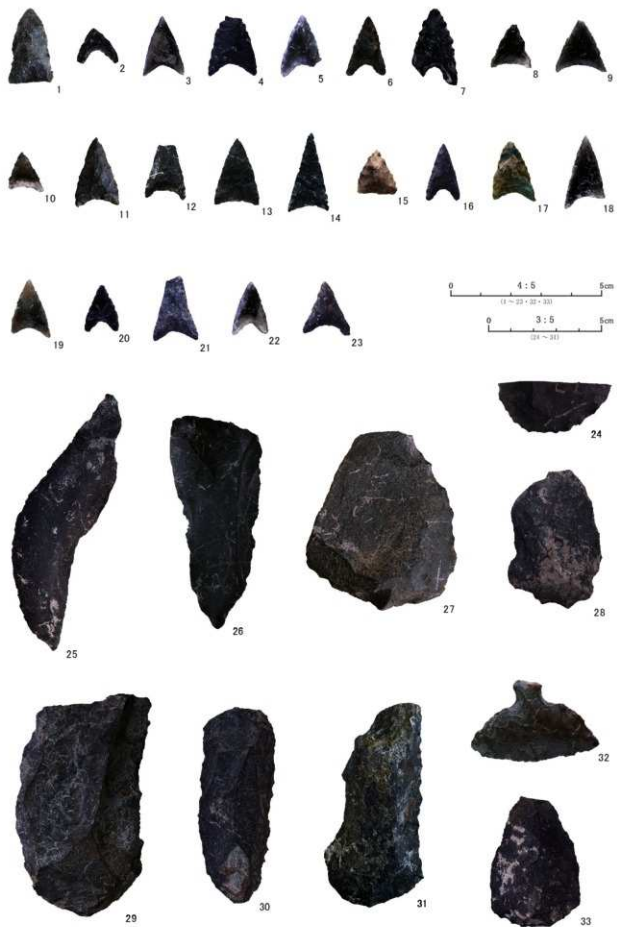
前庭部縦斜面出土土器 (12) 早期





前底部縱斜面出土土器 (13) 早期・前期

图版 36



岩陰部出土石器 (1)

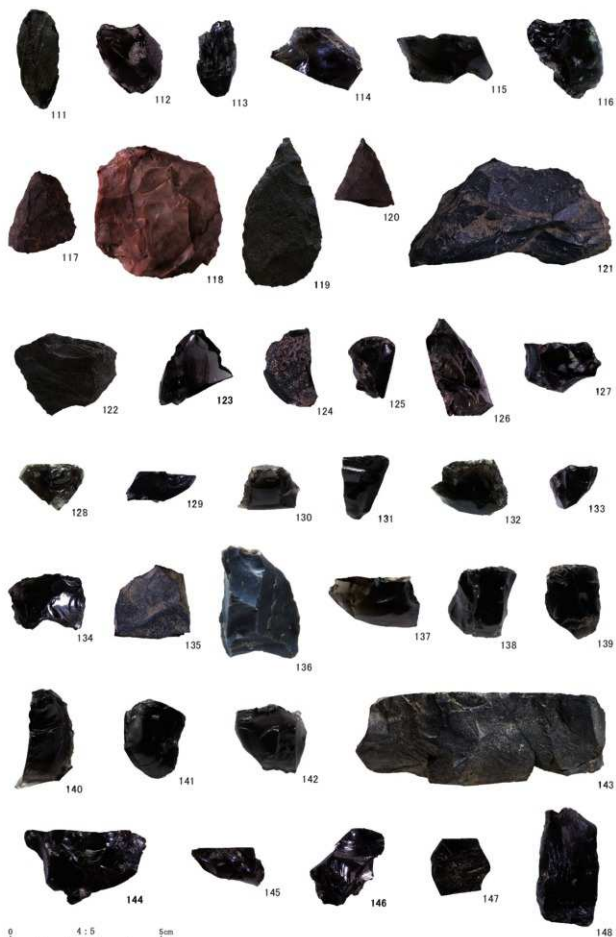


岩陰部出土石器 (2)

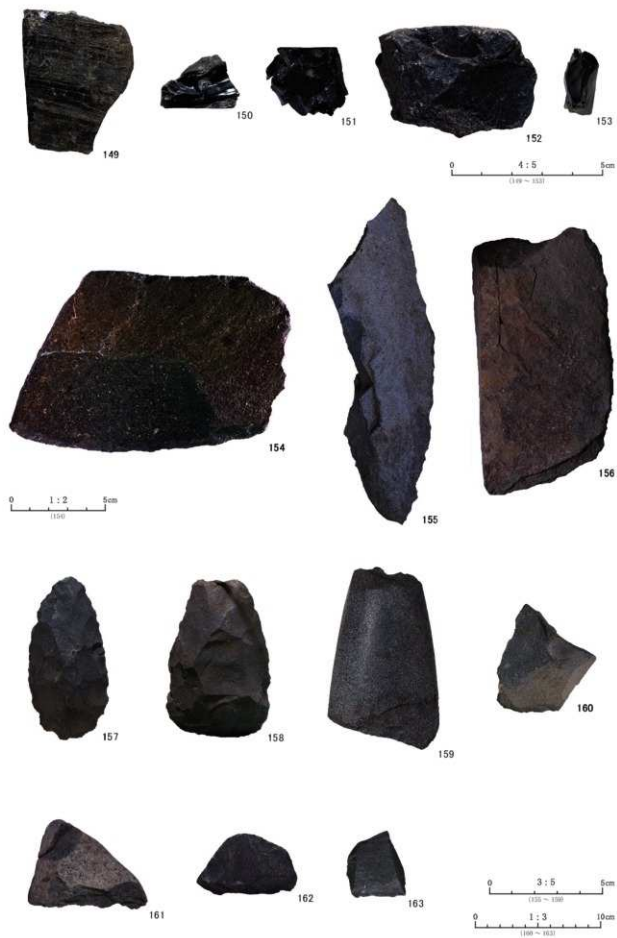
图版 38



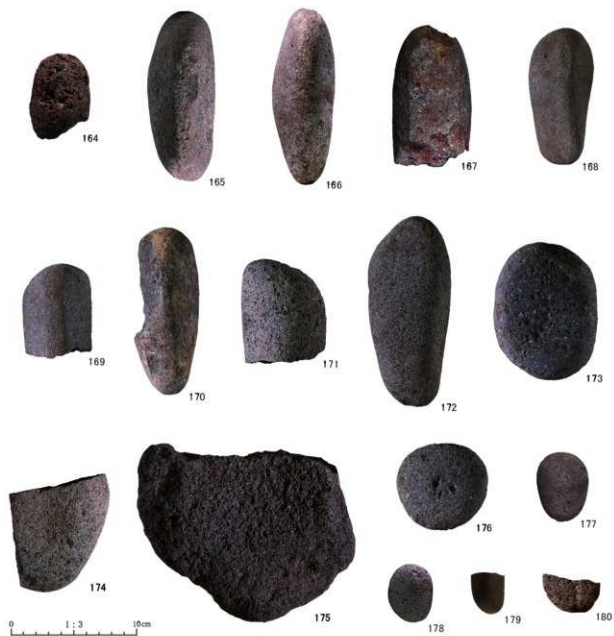
前底部緩斜面出土石器 (1)



前底部緩斜面出土石器 (2)



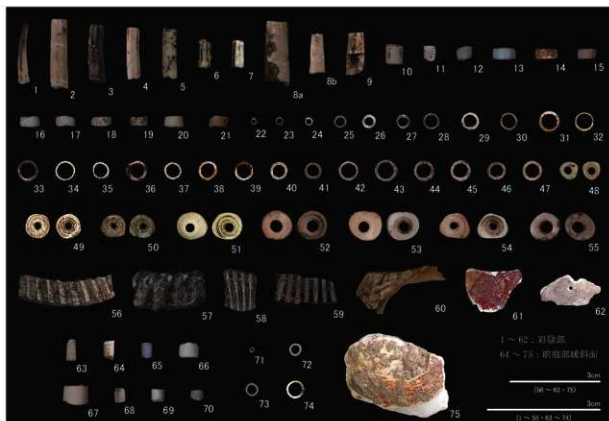
前底部緩斜面出土石器 (3)



前底部緩斜面出土石器 (4)



表面採集石器



岩陰部・前庭部横斜面出土具製品



岩陰部出土骨角牙製品







岩陰部出土動物遺存体 (2)



岩陰部出土動物遺存体 (3)



前底部緩斜面出土動物遺存体 (1)



前底部緩斜面出土動物遺存体 (2)



前底部緩斜面出土動物遺存体 (3)



前底部緩斜面出土動物遺存体 (4)





岩陰部 屋根の取り付け (第4次調査)



調査前現場清掃 (第4次調査)



岩陰部の調査 (第4次調査)



岩陰部 第1セクションベルトの分層 (第5次調査)



前庭部緩斜面の調査 (第4次調査)



前庭部緩斜面 円形落込みの調査 (第4次調査)



遺物出土位置の記録 (第5次調査)





土壌の水洗選別 篩掛け・乾燥作業 (第4次・第5次調査)



ニホンジカ骨格標本の製作 (第4次調査)



第4次調査 調査参加者



第5次調査 調査参加者

## 報告書抄録

ふりがな	いやいいわかげいせき きん だいにじ だいがい はくつちようさほうこうしよ						
書名	居家以岩陰遺跡Ⅲ 第4次・第5次発掘調査報告書						
シリーズ名	國學院大學文学部考古学実習報告 第59集						
編者名	<p>(編集) 谷口康浩・大日方一郎</p> <p>(著者) 大内利紗・大日方一郎・鈴木大賀・多賀谷蓮・谷口康浩・茅原明日香・長崎芽衣・松本耕作・山崎京美・吉澤 徹 (以上、國學院大學居家以岩陰遺跡調査団)</p> <p>千葉史・横山 真・中島将太・工藤雄一郎・米田 稔・伊藤 茂・黒沼保子・佐々木由香・佐藤正教・竹原弘展・バンダリ・スダルシャン・廣田正史・山形秀樹・山本華・Zaur Lomtatidze・森 勇一 (以上、学外執筆者)</p>						
編集機関	國學院大學文学部考古学研究室						
所在地	〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 TEL(FAX):03(5466)0248						
発行年月日	令和5(2023)年 2月28日						
遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	区市町村	遺跡番号					
群馬県 吾妻郡長野原町 大字長野原875	10424	80	36° 33′ 28″	138° 38′ 51″	【第4次】 20170823～0918 【第3次】 20180823～0921	38㎡	学術調査
種別	時代	遺構		主な遺物			
岩陰遺跡	(遺跡形成時期)			縄文土器			
	縄文時代草創期 ～歴史時代	集石	1基	草創期: 爪形文・多縄文 早期: 表裏縄文・回転縄文・燃糸文・押型文・沈線文・無文・条痕文・格状体圧痕文 前期: 羽状縄文・譜織式・十三菩提式 中期: 磨板式 晩期: 浮線網状文系			
	(主体的時期)	灰ブロック	2基	石器・スクレイパー・石匙・ヘラ伏石器・石籠・楔形石器・両面調整尖頭器・打製石斧・磨製石斧・石核・原石・礫器・磨石・特殊磨石・殿石・複合礫石器・石皿・凹石・ハンマー・砥石・軽石製品・石製装身具			
縄文時代早期 縄文時代前期	埋葬人骨	約20個体	貝製品 ツノガイ製ビーズ・イモガイ製ビーズ・貝類) 骨角牙製品 釣針・骨針・ヘラ伏製品・刺突具・尺骨製製品・骨製ビーズ・垂飾・赤彩資料 動物遺存体 陸産・淡水産・海水産貝類25種・淡水産カニ類1種・淡水産魚類4種・カエル類3種・ヘビ類1種・鳥類7種・哺乳類22種				
遺跡の概要	<p>上信越山地の南側にあたる山間地、利根川水系吾妻川流域に位置する岩陰遺跡である。縄文時代から歴史時代にかけて利用された複合遺跡であるが、縄文時代早期の遺物出土量がとくに多く、早期中葉の押型文期・沈線文期および早期後葉の条痕文期に活発な利用痕跡がみられる。前期の出土量も比較的多い。岩陰部の調査では、灰質土中から早期後葉および前期前半の埋葬人骨約20個体が密集して出土し、岩陰内が集団墓として利用されていた状況が明らかとなった。岩陰前面の緩斜面には、動物骨・植物種子などの生活廃棄物が豊富に保存された灰質褐色土が堆積する。第5次調査ではこの灰質褐色土の調査に着手し、厚さ約1.5m、7層からなる層序を確認するとともに、放射性炭素年代測定により押型文期の約200～300年間に形成された堆積物であることを確認した。</p>						
<p>文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合、この報告書の一部を複製して利用することができます。利用にあたっては出典を明記して下さい。</p>							

---

國學院大學文学部考古学実習報告 第59集

## 居家以岩陰遺跡Ⅲ

第4次・第5次発掘調査報告書

令和5(2023)年2月28日 発行

編集 谷口康浩・大日方一郎

発行 國學院大學文学部考古学研究室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

電話 03-5466-0248

印刷 能登印刷株式会社

---